

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<p>・児童の主体的な学びを目指して、算数科を中心に校内研究を進め、伝え合う場面において自分の学習スタイルを選択することで自分で意思表示を行わせた。自己内対話だけではなく、友だちと考えを交流する他者との対話を少しずつ取り入れることで、考えを伝え合う活動に関して児童の意欲の向上が見られた。</p> <p>・児童の学習に対する意欲が低く、意欲を高めるための教材研究および課題提示の工夫の必要、さらに家庭と協力しながらよりよい家庭学習を見出す必要がある。</p> <p>・計画的に「心の広場」「人権集会」を行うことで相手の気持ちを想像して声をかけたり見守ったりすることができる児童が増えてきた。また、心のアンケートの実施、毎週の職員連絡会による気にかいたい児童の情報共有を行うことにより、いじめ等の未然防止、早期発見、早期対応、再発防止に努めた。担任対応だけではなく、組織として継続して対応する必要がある。特別支援教育については個別の支援計画、教育計画をもとに保護者と連携しながら取り組んでいく必要がある。</p> <p>・体育授業前のランニングや昼休みの外遊びの励行を行った。運動場南側の自然公園でも体を動かしよく遊んでおり、体力がついてきたと考える児童が多く見られるようになった。今年度は縦割り班での活動による長縄大会等を実施したい。</p>
------------------	---

2 学校教育目標	よく学び、よく鍛え、心やさしい児童の育成
----------	----------------------

3 本年度の重点目標	<p>○あいさつや返事を自然にできる子ども</p> <p>○互いに考えを出し合い、高め合おうとする子ども</p> <p>○自他の人権を守る子ども</p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標

				中間評価		5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目								学校関係者評価		
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師を85%以上にする。	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。							研究主任 学力向上対策コーディネーター (千々岩、副島)
	○基礎的・基本的な内容の定着を図る。 ○自分の考えを広げたり深めたりするための学び合い活動を充実させ、思考・判断・表現力を高める。	○基礎的・基本的な内容の問題(評価テストなど)の正答率を80%以上にする。 ○ペアやグループで話し合う活動では、「友達の考えを聞いて、自分の考えを伝えられましたか」の質問に肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。	・主体的に学ぶ指導方法の研究を通して、授業改善及び指導力の向上を図る。 ・考えを伝え合い、深い学びへ向かう児童を育成するために、児童の実態や発達段階に応じた協働的な学習活動を設定する。							
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○各学年1回以上、自他の人権を守る大切さを学ぶ授業を実践する。 ○児童アンケート「友達の気持ちを想像して声をかけたり見守ったりすることができたか」の割合を80%以上にする。 ○あいさつ強化月間における調査で目標達成率80%以上にする。	・共通教材を用いた全学年での人権学習や人権教室を実施する。 ・夢の広場(人権教室)の年間計画を立案し、全職員で実施する。 ・年間を通して「ありがとうの木」「かがやきの木」を掲示し、感謝する心や思いやりの心事の意識付けを行う。 ・年3回あいさつ強化月間を設定し、クラスを立って取り組むことで、あいさつへの意識づけを行う。							児童生徒支援教員 人権・同和教育担当 生活指導主任 (佐田、嶋田、水町)
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○児童全員との個別面談を実施する。 ○児童の様子や対応を共通理解するための職員全体での話し合いの場を定期的に設定する。	・「心のアンケート」を実施するとともに、担任が児童と個別面談を行う期間を年間に2回設定する。 ・毎週の職員連絡会で、気になる児童についての共通理解を図り、必要に応じてケース会議等を開く。							
●健康・体づくり	◎地域人材を生かした体験活動	○コミュニティセンターと協力し、地域人材を生かした学習を年に1回以上行う。 ○児童アンケート「体験活動で自分が将来やりたいことと結びつけて学習することができましたか」の割合を80%以上にする。	・地域学習において、ゲストティーチャーを積極的に招く。							ホランティア担当 特活主任 生活科・総合的な学習の時間主任 (溝口、松尾、平山)
	●「運動習慣の改善や定着化」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で150分以上の児童生徒80%以上。	・昼休みに外で遊ぶように声掛けをする。 ・運動が好きになった、前より運動をするようになった児童が80%以上を目指す。							
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●「望ましい生活習慣の形成」	●きらきらかあど「朝ごはんを食べる」の好意的評価を95%以上にする。	・早寝、早起き、朝ごはんの大切さを、保健だよりを通して呼びかける。手洗い指導や栄養教諭の食育の授業を計画・実施し、より良い生活習慣の確立を図る。							保健主事 養護教諭 (測上)
	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限(2時間)を遵守する。	・毎週金曜日を定時退勤日とし、17時施錠を原則とする。 ・一人一人が自分の仕事のやり方を見直し、タイムマネジメントを行う。							
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○学校行事や会議等のスリム化を図る。	○1つ以上の精選及び1つ以上のスリム化を行う。	・ICT機器を有効に活用し、時間の短縮を図る。 ・活動を振り返ったり、改善策を練り合ったりして、PDCAサイクルを回す。							教頭口  教務主任口
	●特別支援教育の充実	○職員アンケート「年度当初と比べ、特別支援教育に関する専門性が向上したと思う」の割合を80%以上にする。	・特別支援教育に関する研修会を実施 ・ケース会議の開催、職員集会等での情報共有							

5 総合評価・ 次年度への展望	<p>●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育</p>
--------------------	-------------------------------------